

シノドス準備のための集いの手引き

(セブンステップを基本としたシノドスのための集いの順序をお知らせします)

☆場の設定：教室のようにではなく、参加者が丸くなって座るようにします。机はなくても構いません。人数よりも1つイスを多く置くのも良いでしょう。そのイスはイエスのイスですと紹介するのも有益です。真ん中にロウソクを置きます。

1. 主を招く

始めるにあたり、主がともにいてくださるようにお出で下さいと、一人か二人が自発的に、主を招く祈りをします。

2. 聖書箇所を読む

今回は、ルカ24章13～35節を読みます。エマオに行く弟子の話です。新共同訳とそれ以外の聖書翻訳をプリントしておくのと耳で聞くとともに、黙読する時間が有効になります。朗読はどなたか自発的にお読みください。二人目の方は、別の聖書翻訳をお読みください。

3. 朗読箇所を黙想する

プリントを黙読しながら、心に響いてくる節、文、短い表現などを味わい、その箇所を選んで、2度声に出して読み、グループの他のメンバーに紹介します。ここではなぜそこを選んだかを説明する必要はありません。全員に近い人が発表するのを待ちます。

4. 沈黙のうちに、神さまからの語りかけに耳を澄ます

2～3分、あるいはもう少しの時間を沈黙で過ごします。神さまに語りかけてくださるように求めながら、心の耳を開くようにして過ごします。

5. 心に響いたことを分かち合う

エマオへ行く弟子たちと復活したイエスとの出会いの場面から、今日、心に響いてきたこと、感動した箇所を紹介して、自分の感じたところを話します。全員ではなくても、多くの参加者が分かち合ってほしいところです。簡潔に話すようにして下さい。

☆次の6での分かち合い、話し合いの際に、祈りの思い、主がともにいてくださる実感の中で進められるために、黙想の分かち合いは大切です。普通の会議の場では、祈りはありませんし、結論は多数決や責任者への一任などで決まっていますが、私たち信仰者は、神さまの思いを一緒に選び取ることを大事にします。そのために、こうした祈りの時間を共に過ごしてから、話し合いの時間に移るようにしています。

6. 今日のテーマを話し合う

今回の集いは、シノドスの準備のためです。シノドスの意味、教皇フランシスコの求めておられることへの思いなどから分かち合います。60分、75分など、所要時間を参加者に確認してください。また、人数分の一が、自分の分かち合う時間の目安です。「分かち合い」は、「話し合い」というよりも、「聞き合い」です。

(1) シノドスは「ともに歩む」という意味ですので、今までの教会での経験を振り返り、「ともに歩むことが出来た体験」「ともに歩めなかった体験」について分かち合います。否定的なことを無理に話す必要はありません。話したい思いを話してください。プライベートな内容が話される場合もあります。そうした場合は、グループで聞いた話を他の場所で話さないことが求められます。この点は大事な点です。信頼できる関係が「ともに歩む」基本だからです。

(2) 教区からお願いした10の質問について、残り時間の範囲内で分かち合います。こゝは、話し合いと考えても構いません。現状分析や評価、今後の展望など、個人の意見が出て来るところですから、率直な意見交換をして下さい。

☆書記役の人が、この6の部分について要点を簡略に記録して下さい。記録は集いの後で、責任者に提出して下さい。詳細な記録は不要です。

7. 祈りをささげる

最後に、今日の集いを感謝して祈ります。自由祈祷で、自分のことばで祈って下さい。全体が祈りである中での議題の分かち合い、話し合いを主がともにいて導いてくださったことも意識して祈りたいものです。

主の祈りやアヴェ・マリアの祈りで終了します（はじめや終わりに歌を歌うこともおすすめです）。